

純真学園大学雑誌原稿執筆要項

1. 原稿の種類

- 1) 原稿の種類は、特集、総説、原著、速報、報告、資料とし、その基準は次のとおりとする。
 - ① 特集：紀要委員会（以下、委員会とする）で課題テーマを決定し、そのテーマに沿った著者を選任して、依頼をする論文
 - ② 総説：特定のテーマ等について、または本学の教育研究の動向や将来構想など、知見を多角的に収集し学問的見解を深め、文献検討を経て総合的に概説している論文
 - ③ 原著：独創的で、新しい知見・理論を論理的に示し、目的、方法、結論が明確な論文
 - ④ 速報：新しい研究方法の開発や、将来発展する価値のある新知見を早急に報告する論文
 - ⑤ 報告：論理的に示すなど、原著論文としては完成できていないが、研究として意義が認められる症例報告、調査報告などの論文
 - ⑥ 資料：掲載の価値が認められる保健・医療・福祉の関係統計資料等の論文
- 2) 委員会の判断により、種類の変更を求める場合がある。

2. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は、純真学園大学に帰属するものとし、投稿時に、著作者（共同研究者を含む）に承諾を得ることとする。ただし、著作者の権利を拘束するものではない。

なお、紀要の電子化については了承したものとする。

著者は、「雑誌」発行後に掲載論文を利用することができる。

3. 倫理規程

次の各号を対象とする研究を行う場合、本学倫理規程等に従って行われることが必須であり、いずれかに基づいて、その旨を本文中に明記する。

- 1) ヒトを対象とする研究は「ヘルシンキ宣言（改定を含む）」、本学倫理委員会規程
- 2) 動物を用いた研究は「カルタヘナ法を含めた実験動物関係法令・指針・実施機関内規定・学会の指針等」
- 3) ヒトゲノムに関する研究は、各施設あるいは関係省庁から出された倫理規定
- 4) 本学遺伝子組換え安全管理規程

4. 全般的事項

- 1) 頁の指定と制限原稿の長さは、原則として図表を含め雑誌の刷り上がり10ページ以内になるようにすること。

頁の指定は、A4用紙の下中央に入れ、表紙を第1ページとする。

- 2) 書式

原稿は、A4用紙を縦長で使用し、「テンプレート」を参考に作成すること。

- 3) 句読点

“.”と“,”を使用する。

- 4) 字体

和文の場合は、MS 明朝とする。

英数字は、Times New Roman とし、半角を用いる。

イタリック、ボールドなどは、原稿に赤字で指示する。特に、一般的なワードプロセッサに装

備されていない記号や活字，自分で作製した外字などは，原稿に明瞭に赤字で指示する。

5) 提出

- (1) 原稿締切日までに，電子データと承諾書（様式1）を紀要委員会に提出する。
- (2) 最終締切日には，原本1部と電子データを紀要委員会に提出する。

5. 原稿の記載方法：表紙・要旨・キーワード

1) 表紙

和文で表題，著者名，所属を，次に英文で表題，著者名，所属を記入する。

2) 要旨とキーワード

和文の原稿は，和文要旨（600字程度），英文要旨（300語以内（字数換算で1500字前後））とする。

3) キーワード

日英併記のキーワード（5個以上）を記入する。英文の原稿は，英語のみで記入する。

4) 英論文の場合は，著者が専門家の校正を事前に受け，その証明書を添付する。

別添（native check 証明の例を参照）

5) 表題の英文は最初の字のほかに各語の1字目は大文字とする。ただし前置詞，接続詞および冠詞は大文字としない。

6. 原稿の記載方法：本文

本文は，原稿の種類に応じた基準の要素を含む形式にまとめる。

1) 用紙サイズは A4用紙とし，1ページ目タイトルからキーワードまでを一段組みとする。

2) 本文は10.5ptの一段組みとして，ページ内に必ずページ数，行数を記入する。

本文中に図表を挿入する位置を明記する。原稿文字数の目安としては，1ページ当たり，
10.5pt × 22文字詰 × 43行 × 2段組 = 1892文字程度となる。

字体は，和文：MS 明朝，英文：Times New Roman とし半角を用いる。

3) 図表・図版

できるだけ図表は，本文に挿入して原稿を作成すること。

図表の下部に，キャプションを記入すること。（フォント8pt 統一）

図表のタイトル・図表ナンバーについてはできるだけ英文で記すこと

（Fig.1 ， Table.1 ， 図1 ， 表1 etc）

7. 原稿の記載方法：引用文献

引用文献の記入については，下記を参照すること。

1) 本文中では引用する箇所の右肩に上ツキの通し番号¹⁾で示すこと。

2) 引用文献は，本文の終わりに引用順に一括掲載する。

すでに引用した文献を繰り返し引用する場合は，引用する箇所に前出の番号を記す（例：^{4, 8-10}）。

3) 本文中に著者名を引用する場合は，原語で記載する。

4) 私信，未発表結果，投稿中の論文，新聞記事，パンフレット，単なる報告書などは文献欄には入れず，本文中に括弧に入れて引用する。

5) 文献の記載方法及び記載例は，科学技術情報流通技術基準（SIST）に準ずる。

6) 文献欄における著者名は，原則として著者全員を記載するが，多人数の場合は，第4著者以後の著者を，和文の場合は“ほか”，英文の場合は，“et al.”で略してもよい。

なお，本文中での引用文献の表記形式は下記のとおりとする。

- 1) 本文中で脚注（備考や注釈など）が必要な場合は、脚注記号（^(注1)，^(注2) など）を語句の右肩に付け、同一ページの本文の下部に横線を記入し、下段にその説明を付記する。
- 2) 他の文献から図、写真を転載する場合は、その転載許可を著者の責任において取得する。
- 3) 記号と符号は、国際的に慣用されているものを、また、単位は原則として SI（国際単位）、MKS とするが、補助単位として一部 cgs 単位系も認める。ただし1つの原稿の中で2種類の単位系を混用しない。

8. 文献の記載方法及び記載例

<学術雑誌の場合>

著者名. 論文名. 誌名 巻号 (46 (5)), 頁 (開始頁-終了頁), (発行年 (西暦)).

<例>

- ※ ○吉○子. 入学前教育の試み－推薦入学予定者への入学前課題の実施と評価－. 看護教育 46 (5), 23-22, 2008.
- ※ 山田英二, 三村 隆, 小林秀樹, 他. 放射線膀胱炎による難治性出血に対するカテーテル塞栓療法. 臨床放射, 39, 273-379, 1998.
- ※ Davis AD, Bax A. Analysis of metal compounds found in soil sample, *J.Am.Chem. Soc.*, **107** (5), 7197-7200, 1985.
- ※ Sessle BJ, Wiesendanger M. Structural and functional definition of the motor cortex in the monkey (*Macaca fuscicularis*), *J. Physiol*, **323**, 245-265, 1982.

<図書の場合>

★編著者名. “書名”, 版, 発行者, 発行地, 頁, 発行年.

<例>

- ※ ○内○一. “社会問題の心理学”, 光文社, 東京, 57-60, 2008.
- ※ Turner EH, Smith DE Jr. “Enzymes”, 2nd., Academic Press, New York, pp108-115, 1964.
- ★編者があり, また多数の著者で書かれた図書から特定の文献を引用する場合
- ※ 著者名. 標題. 論文名, “書名” (編者名), 版, 発行者, 発行地, 頁, 年.

<例>

- ※ 多○真○, 山○田○. 視神経の鑑札, “日本人体解剖学 第3巻” (○村○一, ○賀○一編), 南山堂, 東京, 100-127, 2008
- ※ 三宅一徳. 一般的臨床検査. 標準臨床検査医学 (第2版) (猪狩淳, 中原和彦編), 医学書院, 東京, 14-26, 2001
- ※ Smith CR Jr. Monoenoic acids, “The Lipid Handbook” (ed. By Padley FB, Gunstone FD), Chapman & Hall, Cambridge, 80-98, 1994.

★訳本の場合

著者名. “書名” (編者名), 版, 発行者, 発行地. [翻訳者名, “書名” (監訳者名), 発行者, 発行地, 頁, 年.]

<例>

Kielhofner G. “Conceptual Foundations of Occupation Therapy” (ed. By Davis FA), 1st ed., Academic Press, New York. [山田孝, 小西紀一訳 (1993) “作業療法の理論”, 三輪書店, 大阪, 13-94, 1992.]

★報告書・学会発表講演要旨集の場合

<例>

○野○恵, 加工油脂に含まれるトランス型不飽和脂肪酸の栄養生理機能解析, 平成18-20年度文部科学省科学研究費補助金 (●○研究 A) 研究成果報告書, 1-60, 2009.

★掲載決定の通知を受けた投稿論文を引用する場合

<例>

○田○夫, 慢性骨髄性白血病の治療. ○○誌 2009 印刷中

★電子文献の場合

著書(入手の所在) 名. タイトル, 入手日, アドレス

<例>

○○学会. ○○学会投稿マニュアル, 2008-10-30

<http://www.abc.org/journal/manual.html>

9. 校正

校正は二校までとし, 著者が行う。その際, 印刷上の誤り以外的大幅な字句の訂正, 挿入及び削除は認めない。ただし, 委員会が特別の事情があると認めた場合はこの限りではない。

10. その他

「雑誌」執筆に関しては「テンプレート」も参照すること。

2) その他生ずる必要事項は, その都度, 委員会において決定する。

11. 改廃

この要項の改廃については, 理事会の承認を得るものとする。

附 則

この要項は, 平成24年4月1日から施行する。

この要項は, 平成27年4月1日から施行する。

この要項は, 令和3年4月1日から施行する。

別添

native check 証明の例)

native check の証明をした方の肩書き及び氏名

I have proof-read and edited following research study:

論文名:

著者名:

証明した日付

native check の証明をした方の肩書き及び氏名

自筆サイン